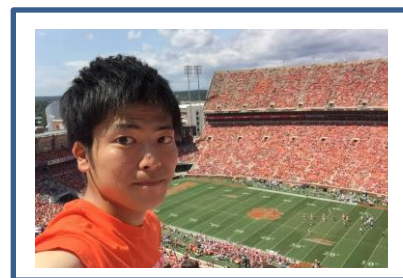


留学先：クレムソン大学

氏名：吉田 莉久（留学時：教育地域科学部学校教育課程 4年）

留学期間：2017年8月～2018年5月（約9ヶ月）



交換留学を希望した動機	将来、中学・高校の英語教員を目指す上で必要となる能力や経験を身に着けるため。語学留学ではなく、交換留学をすることで、実際に現地の母語話者に向けての授業を受けることが出来、かつ現地の学生との交流も深めることが出来ると考えたため。こうすることで、高い英語運用能力、そしてアメリカ現地で生活することで、様々な文化的視点を身につけることが出来た。
留学先を決めた経緯	アメリカに留学したいと大学1年生の頃から考えていたが、当時は福井大学には2校しかアメリカで交換留学が出来る大学がなかった。その中でもより高い基準が設けられ、そして日本人留学生も少ない、この2点を踏まえ、クレムソン大学に留学することを決めた。加えて、大学の規模も大きいため、より多くの現地の学生と触れ合うことが多いことも理由の1つであった。
留学先の大学について (特徴や紹介したい特色)	サウスカロライナ州クレムソンにある州立大学。120年以上の歴史と広大なキャンパスがある。高い教育水準に定評があり、50州と70以上の国から1万8000人以上の学生を集めている。特にビジネスと工学で有名であるが、豊富な種類の専攻が魅力。フットボールの強豪校として知名度は全米屈指である。2016年度には全米1位にも輝いた。また、他の福井大学の協定校に比べ、ヨーロッパなどからの交換留学生も多く（60人程度）、他国の学生とも英語でコミュニケーションを取る機会が多い。
留学先で履修した科目や学習等	【秋学期】 <ul style="list-style-type: none">・ENG 1030：主にどのようにアカデミックな文章を書くかを授業の中で学んだ。最終課題は2500字以上のレポートで、それに向けて文章構成の方法や引用方法を学んだ。・HIS 1020：内容は市民戦争後から現代のアメリカまでの歴史。主に教授の口頭での話をノートに取る授業形式。授業外でも学期を通して3冊の本を読み、その内容を問うテストもあった。・Religions 1020：仏教、キリスト教などを含めた世界の5つの宗教について学んだ。基本は講義スタイルであるが、readingに基づいてディスカッションをする時間も多く設けられた。・EDU 1050：アメリカの教育制度（NCLB）などの内容を取り扱い、

授業では討論する機会が設けられた。また、学期を通して実際にアメリカの幼稚園に10回ほど訪問し、子どもと活動に取り組んだ。

・LS 1560 (Riflery) : 基本は様々な種類のライフルの射撃練習を行った。それだけでなく、ライフルの扱い方や歴史なども授業の中で学んだ。

・Japan 1020 : ボランティアとして参加。主に授業中に日本語を学ぶ学生の会話のサポートに努めた。

【春学期】

・ANTH 2010 : 人類学の入門の授業。人類学を大きく構成する4つの要素から、gender についてなどの点にも詳しく学んだ。学期を通して6個のレポート課題に取り組んだ。

・COMM 2500 : Public Speaking の授業であるため、より良いスピーチを行うために必要なことについて学んだ。具体的には、スピーチ構成の方法などだ。学期を通してグループワーク等含め、5個のスピーチを行った。

・EDF 3350 : 青年期についての授業。青年期を迎えた子どもがどのように発達し、どのような変化を持つか学んだ。授業の一環として現地の中学・高校に合計6回授業見学へ行った。

・COMM 1500 : COMM2500 の授業同様、スピーチをいかに上手く行うかについて学んだ。本授業ではそれに加え、人間はどのように他の人とコミュニケーションを図り、どのような方法を使っているのかについて学んだ。

・COMM 1501 : COMM 1500 で学んだ知識を実際に応用するための授業。主に実際にスピーチを行ったり、スピーチを聞いたりした。学期を通して4つのスピーチを行った。

・LANG 3000 : 言語学の入門の授業。音声学や統語論だけでなく、第二言語習得についても学んだ。最終課題として、自身の興味のある言語学の分野についてリサーチペーパーを書いた。

・EDLT 4630 : 第二言語を教える際の具体的な方法について学んだ。また、第二言語を教える際の文化的側面なども重視されていた。最終課題として、グループで10日間分の授業案を作り、クラス全員に共有した。

・LS 1410 (Climbing) : 実際にクライミングをするだけでなく、具体的なクライミングの技術、そして相手をロープで支える技術などを学んだ。授業では、お互いを信頼し合うことが重視され、登る際には常に相手の名前を呼ぶことがルールとされていた。

・JAP 2020 : 前期同様、ボランティアとして日本語の授業に参加し

	<p>た。日本語の先生に勧められ、実際に授業を少し教えること等にも取り組んだ。</p> <p>*詳しくは月例報告書の9月と1月を参照。</p>
<p>あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージ</p>	<p>既に述べたように、クレムソン大学は教育水準も高く、大学も広く、本当に良い大学です。学生数が多いため、授業だけでなく部活動やイベント等でも多種多様な人と会うことの出来る機会が多いです。私も様々な部活動などに参加することで、多くの友人を作ることが出来ました。</p> <p>クレムソン大学に行って1番良かった点は、日本人留学生が少ないことです。実際、私の留学中は私を含め、日本人は3人だけでした。そのため、普段の生活で日本語を使う機会はほぼなく、自分をより厳しい環境に置くことが出来たと思います。</p> <p>最後に、留学先では楽しいことも辛いこともあると思います。私も初めの1カ月は友人も出来ず、授業にもついていけず、本当に辛かったです。しかし、そういったことを乗り越えることで留学先で成長することが出来ます。辛いときこそ、自分が成長する良い機会だと思い、自分から動いてみてください。きっと留學生活がより充実したものになると思います。</p>

【交換留学の成果について】

①交換留学を希望した動機を踏まえた成果を得ることができたか

英語力については、少なくとも留学前より力がつきました。生活すべてが英語であるため、ストレスが溜まることもありましたが、それらを乗り越えることで自身の英語力を伸ばすことが出来ました。特に、現地の学生と同じ授業を受けることは本当に辛かったです。現地の学生であれば30分で終わるレポートも私は4時間以上かかることもありましたが、それらを乗り越えることは自分の英語能力の自信にもつながりました。

また、文化的視点については現地の友人を通して、アメリカの文化、またスラングなどを学ぶことが出来ました。私が所属していたアジア人クラブでは、Secret SantaやSemi-formal partyと言ったイベントなどを開催していたため、日本では出来ないことも体験出来て本当によかったです。

②自身が設定した目標を達成できたか

私が留学前に立てた目標は、上記①で述べたことに加え、友人を多く作ることで、そしてアメリカでしか出来ない経験をするということです。友人作りに苦しんだ時期もありましたが、自分から積極的に話しかけることで、アメリカで友人を作ることが出来ました。友人が出来てからは英語を使う機会も格段に増え、より充実した生活を送れたと思います。また、アメリカでしか出来ない経験も多く出来ました。例えば、冬休み中はアメリカの主要都市を旅行できましたし、念願のNBAを観戦しました。クレムソン大学はアメフトも強いので、スタジアムに行って応援したこともアメリカでしか

出来ない経験の1つでした。

③留学先での学業を通して学んだこと

私は英語教育を専攻していますが、留学先では教育だけでなく様々な種類の授業を取ろうと決めていました。そのため、秋学期は歴史や宗教、後期はコミュニケーションや人類学といった授業を履修しました。宗教や人類学などの背景知識のない授業を受講することは大変でしたが、新しいことを知ることは楽しく、新しい視点を身に着けることが出来ました。人類学の授業では、ジェンダーについて学び、今後どのように人間が性別を捉えていくべきかについて学びました。他にも、アメリカの視点から歴史を学んでいく歴史の授業も興味深かったです。特に真珠湾攻撃などは、私が日本で習ったことと異なり、歴史は1つの事実であっても、国ごとに捉え方が異なると実感しました。

④留学先での生活を通して学んだこと

留学先で様々な人と関わることを通して、私はいかに自分が日本と言う国の文化や歴史を知らないかに気付きました。例えば、アメリカ人の友人に日本の政治や歌舞伎について質問されたとき、質問に答えることが出来ませんでした。このように、留学先で生活することで、日本という国を客観的に見ることが出来、アメリカと言う国だけでなく自国についてもより深く理解出来るようになったと思います。

⑤留学前に期待した以上にできたこととその理由

留学中に期待以上に出来たことは、多くの友人を作ることが出来たことです。前述したように、初めの1カ月は友人が出来ず、辛い時期を過ごしましたが、自分から部活動に参加することで多くの友人を作ることが出来ました。友人と過ごす時間はもちろん楽しかったですし、友人からアメリカの文化やスラングと言ったものを教えてもらったのも本当に良い経験でした。私が帰国する際にも、朝5時にも関わらず、多くの友人が空港まで見送りに来てくれて、本当に一生の友人を作ることが出来て良かったと思います。

また、長期休みを利用して、様々な場所に行くことが出来たこともよかったです。秋休みには、アメリカ人の友人とノースカロライナ州にある山に泊りがけでハイキングに行きました。冬休みには、サンフランシスコ、ロスアンゼルス、ラスベガス、ニューヨーク、ワシントンDCといったアメリカの主要都市を回ることが出来ました。これらの経験は社会に出てからはなかなか出来ないし、将来英語教員になった際にも自分の生徒に話すこともできるため、本当に貴重であったと思います。



空港まで来てくれた友人



ラスベガスでのスカイダイビング

⑥留学前・留学中に期待していたもののできなかったこととその理由

幸運にも、留学前に期待していたことは留学中にほとんど達成することが出来ました。強いて言うのであれば、4月中にメジャーリーグを見に行きたいと考えていましたが、4月は課題やテストに追われ見に行くことが出来ませんでした。次回、アメリカに行く際には必ず見に行こうと思います。

⑦交換留学での経験を踏まえて、学業やキャリアにおける今後の目標

学業面では、自身の英語力を保てるよう、そしてさらに伸ばしていくことが出来るように取り組んでいこうと思います。具体的には、2つの方法を考えています。1つ目は、英検1級の取得やTOEIC950点、TOEFL90点などの目標を基に勉強に取り組むつもりです。2つ目は、大学内外で英語を用いて留学生などをサポートしていこうと考えています。特に私は9カ月留学をしていたため、異なる言語が使われる環境で生活していくことの辛さを理解することが出来ます。少しでも彼らを勉強、生活面で助けることが出来るように、チューター活動などに取り組むつもりです。

また、キャリア面では、7月中旬にある教員採用試験を受け、福井県内で英語の教員を目指す予定です。英語の教員になった際には、留学先で身に着けた英語能力を活用し、生徒により実用的な英語を教えたいです。具体的には、現地では、挨拶する際には“How are you?”だけでなく、“How are you doing?”や“ How is going?”等の様々な表現を使っていたため、そのような表現を使い、教科書に載っていること以上の英語を生徒に提供したいです。そして、英語を使うことがいかに楽しいかを伝えていこうと思います。

